

# 建築概論

## (第11回)

ドラマから学ぶ倫理

1

今回は、『空飛ぶタイヤテレビドラマ』を鑑賞して、そこから学べる内容について考えてみたいと思います。

## リスク隠蔽による被害

- 企業のリスク隠蔽事件
  - 三菱自動車リコール隠蔽事件
  - 雪印食品国産牛肉偽装事件
  - **建築士による構造計算書偽装問題**
  - KYBによる免震・制振オイルダンパーの検査データ改ざん問題
  - レオパレス21の施工不良問題
  - 大和ハウス工業の建築基準法違反と施行不良問題
- 政府のリスク隠蔽事件
  - 薬害エイズ事件
  - BSE(狂牛病)問題

2

ここに、掲載しているのは、企業が過去、リスク隠蔽をして、後に発覚して大きな社会問題となった事例をあげています。

ここに、示しているように、建築に関係するものも沢山あります。

特に、赤で示している構造計算書偽装問題は、社会に非常に大きな衝撃を与え、一級建築士に対する信頼を失墜させる事件でした。

## 空飛ぶタイヤ

- タイヤ脱落事故と大手自動車メーカーのリコール隠しをテーマにした作品
- 事故を起こした運送会社の社長が、自社の無実を証明すべく巨大企業の闇に挑む経済小説
- 2002年に発生した三菱自動車製大型トラックの脱輪による死傷事故、三菱自動車によるリコール隠しなどを物語の下敷きとしている

その中で、今回とりあげるのは、池井戸潤の小説『空飛ぶタイヤ』をもとにしたテレビドラマです。

技術者倫理の問題は、口で言っても、なかなか伝わらないので、こういうテレビドラマを通して、倫理の問題が、現実には、いかに難しい問題であるかを学んでもらいたいと思います。

池井戸潤の小説は、次々にテレビドラマ化されているので、これをきっかけに、他のドラマもぜひ見てください。

## 空飛ぶタイヤの復習(1)

- お金より大事なものは沢山ある
  - 子供の純粋な願い
  - 働くことの喜び
  - 人と人との絆(繋がり)
  - いのち(生命)の輝き(赤ちゃんの誕生)
- 組織を守らなければならない(隠蔽の言い訳)
  - 組織を守るためには、リスク隠蔽もやむを得ない
  - 組織が崩壊すれば、数万人が職を失う

4

私自身が、このドラマから学んだことを挙げてみたいと思います。

主人公の赤松社長の言葉で印象的だったのが、「お金より大事なものは沢山ある」という言葉ですね。

このドラマ(小説)の底流には、お金より大事なものとして、ここに挙げているような項目が語られているように思います。

一方で、隠蔽側の言い訳としては、組織を守らなければならないというものがありますね。

要するに、多数の幸福を守るためには、少数、あるいは個人の犠牲はやむをえないという考え方ですね。

さて、皆さんは、このような組織側の言い訳に抵抗できますか？ だいたい、国同士の戦争なんかも、こういう論理から引き起こされますね。

このような論理は、一見、正しいように見えますが、どこにその問題点が潜んでいるのでしょうか？ 考えてみてください。

## 空飛ぶタイヤの復習(2)

- 内部告発の難しさ
  - 内部告発者のほとんどは会社を追われる
  - 内部告発には仲間が必要
  - 内部告発には家族の理解が必要(生活を守る必要)
- 権力との戦い
  - 壁の側に立つのか、卵の側に立つのか。  
文学者は卵の側に立つ(村上春樹)。
  - 自動車で蛙を踏みつぶしても痛みを感じない。  
権力は弱者を踏みつぶしても痛みを感じない。

5

そして、このドラマで印象的なのが、内部告発の難しさですね。

現実問題、今の日本社会では、内部告発者のほとんどが、結果的に会社から追い出されているのです。ですから、内部告発を行うためには、まずは仲間を作って抵抗するということが大事ですね。そして、権力者に対して、媚びない人格の人間を味方につけることが肝要です。そして、下手をすれば、職を失いかねないわけですから、家族の理解も必要ですね。その辺が、このドラマでは上手に描かれていると思います。

そして、倫理の問題は、ほとんどが権力との戦いになるということですね。一寸の虫にも五分の魂という言葉がありますが、立場の弱い人間は、権力によって簡単に踏みつぶされますから、よほどの信念がないと、倫理を貫くことは難しいと思います。

権力を持つということは、自動車でカエルを踏みつぶすようなもので、弱い、小さいものを踏みつぶしても痛みを感じないのですね。文学というのは、常にそういう社会の不条理を暴くことで、人間の生きる意味を問いかけているわけです。ですから、倫理観を身につけるために、若い時に文学に触れることは大事なことです。

## 空飛ぶタイヤの復習(3)

- 現実にはドラマのように行かない
  - ほとんどが泣き寝入りか、お金をもらって我慢する。(不条理の世界)
  - 世の中は、権力者(大企業)が有利になるような仕組みになっている？
- お金と権力を持つものが幸せなのか？
  - 仏教では、天上界の次は地獄
  - お金が無かったら不幸なのか？ (万引き家族)
  - 日本の幸福度ランキングは世界54位

6

倫理を貫くということは、現実には、本当に難しいことなのです。

現実には、ドラマのように行かないのがほとんどです。ですから、私たちは、こんなドラマを見て、鬱憤を晴らしているわけですね。池井戸潤の『半沢直樹』なんかは、その典型かも知れませんが、倍返して権力者を叩き潰したい欲求は人間誰も持っていますからね。

しかし、実は権力者の方も、幸せとは言えないわけです。典型例は、北朝鮮の最高権力者ですね。権力を持ちながら、恐れと不安にさいなまれていると思います。なぜなら、人から愛されているという実感が無いからです。

このドラマの狩野常務も、拘置所に入れられた後の方が、すっきりした顔をしていますね。権力の座を保つということは、非常の苦しいことだし、そこに本当の幸せがあるかと言えば、そんなことはないわけですね。

権力の筈が無くなった時に、はじめて人間らしい人間になれるということがあります。ですから、倫理を守り抜ける人というのは、お金や権力だけに価値を置いていない人ですね。たとえお金がなくても、皆から愛され、信頼され、尊敬されるということがあれば、幸せだということがあるのです。特に、今の日本人は、そういう幸せを忘れていていますね。

## 考え、迷うことの大事さ

- 人間は何のために生きているのか？
- 人間の幸せとは何なのか？
- 自己とは何なのか？
- 人間とは何なのか？
- 宗教とは？ 哲学とは？ 文学とは？

7

ですから、倫理を貫くためには、本物の人間になることが必要なのです。

人から愛される人は、どういう人か？ それは、人の苦しみがわかる人ですね。そして、人の苦しみがわかるには、やはり若い時の苦悩が欠かせないわけです。

苦悩というのは、迷うということですね。それは、実は、人間に与えられた宝物なのかも知れません。

## 仏教の価値観

- 人間の欲は切りがない。無限に膨張していく。
  - 人間の苦しみは、貪欲(とんよく)(むさぼり)、瞋恚(しんに)(いかり)、愚痴(ぐち)(迷い)から生じる。この3つを三毒と言う。
  - この三毒が地獄(戦争)・餓鬼(飢餓)・畜生(奴隷)の三悪道を生じさせる。
- 煩悩が無くなれば、人間とは言えなくなる。
  - 煩悩を抱えながら、煩悩を超えて生きる。
  - 利他の精神を持って生きる。
  - 共に生きられる世界(浄土)をめざす。
- 仏教文化は、日本が世界に誇るべき文化

8

仏教から言えば、苦しみは、煩悩から起きてくるものですが、では、煩悩が無くなれば良いのかと言えば、煩悩が無くなれば、ロボットと変わりませんよね。

今回のドラマでも、狩野常務という悪役がいるから面白いのであって、皆が正義の味方だとドラマは成り立ちません。人生も同じです。苦しいことがあるから幸せを感じるわけです。煩悩があるから、悲しみもあれば、喜びもあるのです。ですから、君たちも、狩野常務の立場に置かれることだってあるわけです。いつも、正義の側にいるとは限らないわけです。

ですから、仏教は、倫理とは違うのです。たとえ、悪人の役がまわってきても、そこでどのような生き方をするかが問われるのです。狩野常務の立場であれば、責任を取るといことですね。

そういう与えられた縁を精一杯生きることが、仏教の意味ですね。

私は、人間を突き動かすものは、願いだと思うのです。今回のドラマも、母親を失った子供の純粋な願いが、周囲の大人を突き動かしていくわけですね。仏教は、そういう人間を突き動かす願いに出会うことなのですね。



## 第11回レポート課題

1. 空飛ぶタイヤから学んだことを書け
2. 副読本の「第10章」を読んだ感想について書け

9

今回は、このレポート課題にしたがって、レポートを作成してください。

以上で、第11回目の授業を終了します。